

特集① 休診しないトイレの改修工事



仙台赤十字病院の事例に学ぶ 改修工事の可能性

【仙台赤十字病院改修工事】

- 改修年月 / 2012年7月～2013年3月
- 所在地 / 宮城県仙台市太白区八木山本町2-43-3
- 施主 / 仙台赤十字病院
- 設計・施工 / 株式会社理舎
- 病床数 / 400床

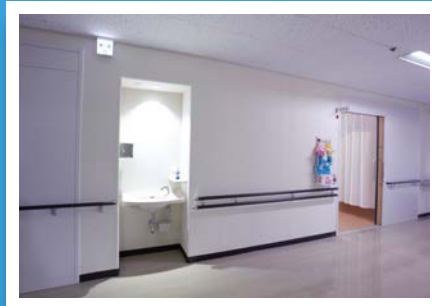


4F婦人科のトイレ。アール型のドアがスライドするトイレブースを採用したことで、余裕のある広さを確保。和式から洋式便器への切り替えなどが行われた。

仙台赤十字病院では、
バリアフリーで快適な療養環境づくりのため、
2012年の7月から2013年の3月にかけて、病室・トイレ・洗面スペースなどの改修工事を行いました。
休診せずに医療行為を行いながらの改修には、さまざまな困難があることはもちろんですが、
きめ細かな創意工夫や、スタッフ同士の協力によって、乗り越えることができました。
この特集では、今、求められる「トイレの改修工事」について、その事例とアンケート結果から学びます。



100万人都市・仙台の医療を支える、美しい緑に囲まれた病院である。



廊下の手洗いスペースを確保したことが、改修のスタートとなった。



特別室などの個室には、クッション性のある床材を採用した。

「トイレが古くて汚い」という声を聞いたとき、なんとか改善したいと考えていました。



大規模な改修工事は、感染対策からスタートしました。

今回の改修工事のきっかけは、ナースステーションや個室以外にも手洗いできる場所を増やすために、病棟の廊下に手洗いを増設する感染対策の工事でした。トイレの改修をしようと考えたのは建物が築後30年で、今まで何度も利用者様から「トイレが古くて汚い」という投書をいただいていたからです。震災後に耐震補強工事を済ませ、改めて療養環境を見直して、トイレだけでなく洗面所やお風呂も全面的に改修することを決めました。工事を始めてから入院が増えて病室が混むなど、途中でたいへんなこともありました。設計・施工会社さんの全面的なご協力で、良好な療養環境に整備できました。

ゆとりのあるトイレブース。転倒対策など、安全性の確保も。

新しいトイレブースには、スペースにゆとりがとれて開閉しやすいとの提案を受けて、アール型のドアを多く採用しました。もちろん、患者さんが中で倒れた時の安全性も考慮しました。他にも転倒対策として全病室をクッション性のある床に張り替えるなど、安全の確保に配慮しました。個室のトイレ・シャワーユニットも無理をお願いして、できるだけ段差が少なくバリアフリーになる工夫をしてもらいました。現場には、仮設トイレをつくる空きスペースがなく、工事成功の鍵はローテーションでした。工程を説明してから工事を進め、患者さんからは「不便だ」との声もいただいたものの、最終的にはご協力・ご理解をいただいて工事を終えることができて感謝しています。

トイレ改修を成功へと導く! 主なポイント

Point 1 「進め方」

- 1フロアに必ず1ヵ所は、使えるトイレを確保したい。他の階のトイレを使うのは、かなりの困難を要する。
- どこかに新しいトイレ空間のモデルをつくり、みんなで検証してから実際の工事へと進めるのが理想的。
- 工事期間を明確にし、小児科ではお昼寝の時間には騒音を避けるなど、患者さんに合わせた工程管理を徹底。
- 「和洋リモデル工法[※]」なら、工期を短縮し、患者さんの負担を軽減することもできる。

※1フロア施工(階下での作業が不要)・2日間の短工期で、既存の和式便器から洋式便器に改修するTOTOのオリジナル工法。

Point 2 「告知」

- 患者さんには一人ひとり、事前に工事内容を伝達。場合によっては主治医の方から説明してもらう。
- 掲示する案内の文字などは、大きくハッキリと。

Point 3 「空間・設備」

- 湿式トイレは清掃のしやすい乾式トイレに。ほとんど使われていない和式便器はすべて洋式便器に変更。
- LED照明や節水型の便器にするなど、省エネに配慮。

Contents

特集① 休診しないトイレの改修工事

仙台赤十字病院の事例に学ぶ改修工事の可能性 2
 病院のトイレ改修に関するアンケート調査結果 6

特集② 衛生的なトイレづくりと長期視点の維持管理

～病院に和式便器はいらない! 8
病院のケーススタディ
 ● Hospital Case Study 1 四国こどもとおとなの医療センター 10
 ● Hospital Case Study 2 中東遠総合医療センター 14

● Hospital Case Study 3 イムス三芳総合病院 18

特集③ 新しい病院清掃のあり方とは 20

高齢者施設のケーススタディ
 ● Welfare Case Study 1 特別養護老人ホーム あかま 24
 ● Welfare Case Study 2 特別養護老人ホーム ゆるり 26
大学のケーススタディ
 ● University Case Study 北海道医療大学 28
 癒しのトイレ研究会 メンバー紹介 30
 癒しのトイレ研究会からのメッセージ 32



改修プロジェクトを成功させるには

～ 仙台赤十字病院・スタッフ&看護師&設計者さん座談会～

今回の改修プロジェクトの中心となったメンバーにお集まりいただき、改修成功の秘訣や感想などを語っていただきました。



左から 株式会社理舎 開発営業部 係長 岡田政也さん | 看護部 看護副部長 加藤千恵さん | 看護部 看護師長 泉田さとみさん | 施設調度課 設備係長 石橋弘さん | 施設調度課 施設係長 阿部文樹さん

使えるトイレを同一フロアに必ず複数確保しておきたい。

石橋 改修工事では、音と、臭いと、ホコリ。これらのマイナス要素をどう軽減するかが重要ですね。

泉田 工事中の騒音対策には限界もありますが、業者さんに施工のしかたを工夫してもらったり、工事期間を具体的に教えてもらいながら患者さんにご案内の努力をしたことで、ご理解いただけたと思います。

石橋 トイレの改修工事をスタートさせたのが、1Fの外来中央トイレからでした。そこで改修のイメージをつかめたことは良かったですね。

泉田 共用のトイレを工事する時は、最初に北(新設)と南(改修)の車いすトイレを工事して使えるようにし、個室が空いている時には個室のトイレを開放して自由に使ってもらいました。ご不便にご協力いただいたのは、それぞれのフロアで10日から2週間くらいでした。

阿部 病室の工事では、ドクターや師長さんたちの病室の明け渡しの調整、さらに上下階での調整が、いちばんたいへんだったと思いますね。

自分たちが選ぶという参加型のしくみも必要。

岡田 各病棟・診療科目によって患者さんのニーズも違いますから、それぞれに異なるプランづくりを行いました。図面を書き直した回数も、それぞれ10数回に及びましたね。

阿部 手すりやナースコールの位置まで、それぞれ違いますからね。

泉田 やはりスタッフならではの視点がありますから、現場で意見を言うことも多かったですし、それに対応して工事をやり直していただくなど、設計の

理舎さんには一生懸命取り組んでいただき感謝しています。

加藤 トイレの色は、専門家の方に何パターンかご提示いただいて、どれがいいかスタッフに投票してもらい、その結果で施工しています。そうした参加型のしくみ、自分たちが選ぶという行為も、改修には大切だと感じましたね。

アール型のドアに慣れると他所のドアが不便に感じる。

阿部 実際に工事を終えて、外来のトイレをたまに使ってみると、患者さんや付き添いの方から「変わったね」「きれいになりましたね」という生の声を聞かせていただけるので、それがいちばんうれしいですね。

加藤 外来に通われている患者さんから「明るい気持ちで使えるので、もう一回トイレに寄ってから帰ろうと思います」と言われました。

新しいトイレブースのアール型のドアに慣れた後で、他の施設で内開きのドアを使う機会があると、スペースが窮屈で、なんて不便だろうと実感しています。点滴台を持っている患者さんも、かなりストレスが解消されたのではないのでしょうか。

石橋 私は設備を担当していますが、今までは細かい修理の依頼などがけっこうありました。今回大がかりな改修工事を行ってからは、そんなケースも減りましたから、だいぶ助かっています。照明にはほとんどLEDを採用し、大幅な節電にもつながりましたね。

加藤 「患者さんにいい環境を」という想いがあれば、途中の困難も乗り越えられますし、完成した時の大きな喜びになります。全体の工事期間は長かったですから、根気が必要でした。取り組む意義を思い出しながらやっていくことが大事だと思いますね。

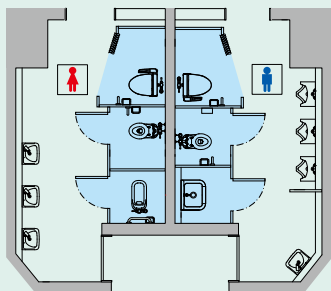


診療科ごとの配慮のポイント

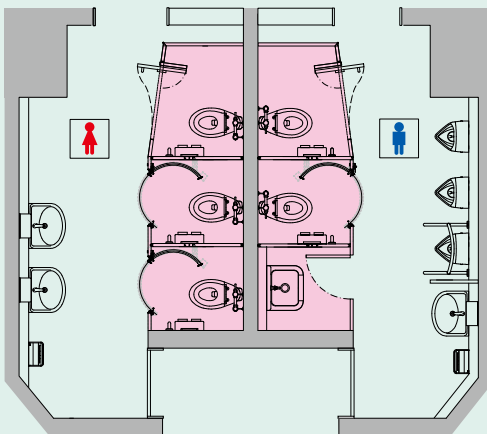
それぞれの診療科の特性によって、トイレの設計プランをきめ細かく変えています。代表的なものを一部ご紹介します。

病棟A 6F(小児科)トイレ

Before



After



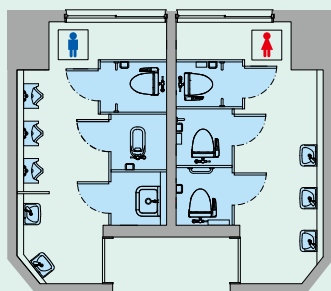
Point

- 幼児用便器を、高学年の子どもや保護者も使えるように、大人用便器と幼児用の便座付きの普通便座に変更。
- トイレブースの扉を、開き戸からアール型のドアに変更(いちばん奥のみ折戸にして車いす対応)。保護者の方も一緒に入りやすいスペースに。

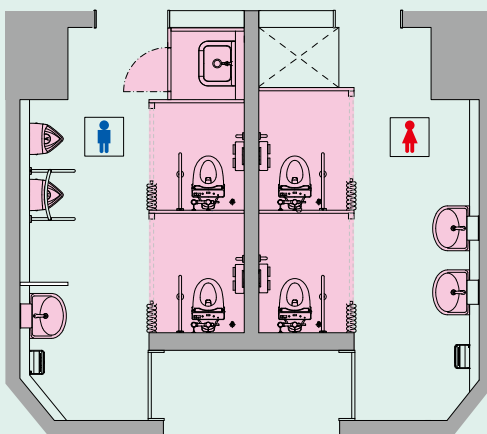


病棟B 6F(主に整形外科)トイレ

Before



After



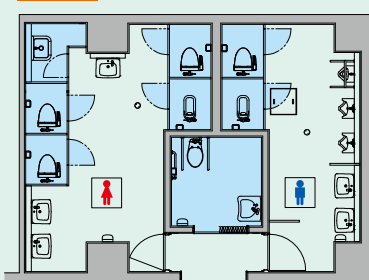
Point

- 車いすで脚部を挙上したそのままの状態に入れるように、ブースは自動のアコーディオン扉に変更。
- 手洗器や小便器の数を減らして、全体的に車いすでもゆったりと使える動線を確保したスペースに。

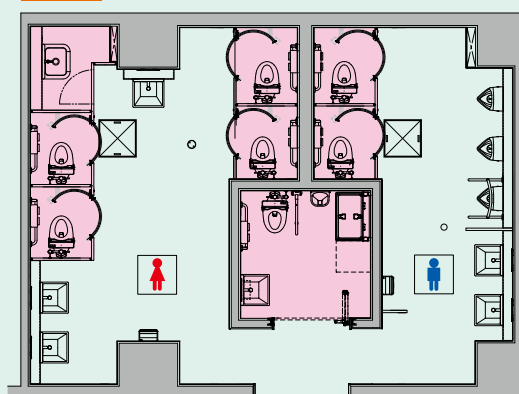


1F 外来中央トイレ

Before



After



Point

- 車いすトイレを、ベビーチェア、ベビシートを設置した多目的トイレに改修。プライバシーに配慮し、アコーディオン扉から折戸に変更。
- 外来であっても和式便器は必要ないと考え、男性用・女性用ともに、和式便器を洋式便器に変更。

